Intertek Certification Japan Limited

Intertek News

Intertek
Valued Quality. Delivered.

ISO関連季刊情報誌（年4回発行）

Vol.54（2016年10月発行）

ISO9001/ISO14001改訂の機に営業としてできること

営業部 東海エリア担当　福田（ふくだ） 直隆（なおたか）

皆様、いつもインターテックへの審査のご用命、また多大なご支援を賜りありがとうございます。

さて、ISO9001及びISO14001の2015年版が発行されて約1年となりますが認証取得されている皆様、移行へのご準備はお進みになられておりますでしょうか。本誌上でも何度もお伝えしており、繰り返しとなりますが、移行期間は2018年の9月14日となります。インターテックでは万が一の状況も考慮して2018年の3月までに行われる審査の中で移行審査を行い、移行を完了して頂くようお願い致しております。

今回の改訂は、ISO9001は7年振り、ISO14001にいたっては11年振りの改訂となり、章立て自体は大きく変更となっていますが、新規追加といわれる項目についても普段事業活動されている組織様ではごく当然の事が要求事項として前面に出てきたと捉えて頂ければと思います。折角の機会ですので、今回の改訂の主旨でもある「事業活動との統合」という観点から、今まで以上に普段使いの仕組みへの改訂をご検討頂ければと思います。

実際の改訂対応につきましては組織様の数だけ対応方法や対応に要する工数（時間）は異なると思います。先ずは貴社の審査サイクルから移行審査時期を決定し、そこから逆算して15年版運用開始時期、教育訓練時期、文書の見直し時期等の各段階のスケジュール策定が必須となります。改訂対応等についてお困りの際は、お近くの営業担当や事務所へご連絡頂けますとおおよその計画のご案内をさせて頂きますので、お気軽にお問合せ下さい。

また改訂対応につきまして、弊社で開催しております「移行対応セミナー」や「内部監査員コース」等の研修をご活用頂けますと幸いです。

最後に、今回の改訂に際しましても、我々のMissionである「組織様の未来に変革と付加価値をもたらすことを理念とし、継続的改善を促す触媒となる」という一念で全力対応させて頂きます。引き続き皆様からのご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

CONTENTS

01 ISO9001/ISO14001改訂の機に営業としてできること

02 特集
03 ISO2015年版改訂への取組み
－2015年版（リスクベースのマネジメントシステム）改訂への取組み
－事例紹介（株式会社町田工務店）

04 News & Topics
－NPS調査開始
－新セミナーのご案内
－交流会と相談会
－Q&A

05 審査の現場から
－お客様紹介
（フセハツ工業株式会社）
－連載よみもの
「審査員の心理」（環境編）

06 連載よみもの
－審査員リレーエッセイ
「将棋界の人材育成」
（審査員　石井 真樹）
－環境とISO14001
「統合報告書とは何か」

07 お客様からのお便り
－「購入から里親へ」
（株式会社グロップ）
－「AS9100認証取得」
（アキモク鉄工株式会社）

08 研修コースのご案内
－Informartion〈重要〉
－コース案内
－受講生からのお便り
（株式会社高向造園土木）

2015年版 改訂への取組み

― 移行準備に向けて ―

昨年9月にISO9001:2015、ISO14001:2015が発行されてから1年が経ちました。すでに2015年版への移行を完了されたお客様もいらっしゃるかと思いますが、これからご準備されるお客様へのご参考として、その取組みについて取り上げます。また、事例紹介として、11月に移行審査を予定されている株式会社町田工務店様の取組みも合わせてご紹介いたします。移行への準備にお役立ていただければ幸いです。（編集部）

特集1 2015年版（リスクベースのマネジメントシステム）改訂への取組み

主任審査員 元永 優一

はじめに

私のISO審査の原点は、インターテックの基本理念VISION＆MISSION、「小規模組織に付加価値をもたらす審査」の心構えと「審査は現場にある」です。審査当初、自分の経験と専門性が災いし、QMSでは、品質が気にかかり、マネジメント、つまりどのようなしくみで動いているかを見ることに気づくまで3年近くかかりました。その結果たどり着いたのが「リスクマネジメントに基づく審査」、まさに2015年版の考えでした。10年以上試行錯誤を続けた現場を重視する審査経験を基に、2015年版について述べさせていただきます。

『組織及びその状況』を理解する

一般的に審査やコンサルタント時には、どうしても規格中心に考えて進めていく傾向がありますが、2015年版では、まず「組織及びその状況」を理解する重要性が示されています。組織の社会的立場・意義、規模・活動内容など多要因を考慮することが、組織のマネジメントシステムを構築し、審査するうえで大切な視点であることが示されています。つまり、組織の人員構成、事業活動を理解しないと、現場活動とのミスマッチ、二重構造のマネジメントシステムが構築される大きな原因となることを過去の審査で見てきました。このことは、現場に潜在する「リスク及び機会」を見逃し、重大な損失を受ける結果を招きます。従って、今改訂を機に、組織及びコンサルタントの皆様は、現場と不整合のあるマネジメントシステムはすべて捨てさり、新たな仕組みづくりをすることを、まずお勧めします。つまりマネジメントシステムの整理整頓です。【整理＝無駄なものを捨てる、整頓＝個人・組織のリスク低減につながるしくみの構築】

その結果、現場活動に合致し、かつ個人と組織のリスクを低減する仕組みが構築できると信じています。組織、コンサルタントの皆様が、現状を打破するためにも、今運用しているマネジメントシステムを基に2015年版に移行するのではなく、現場からの目線で新たなしくみを構築するきっかけにしていただくことで、これからの激動する社会変化に追従できる「リスク対応ベースのマネジメントシステム」が構築できると確信しております。

活きたシステムにするために

2015年版は、「組織の状況」、「リスク及び機会への取組み」といった新しい要求事項がありますが、このようなことは組織を運営するときにトップマネジメントは常に考えていることであり、ことさら新しいことではありません。ただ、

2015年版によるシステムの中でより明確になったということです。システムはより現実的で生き生きしたものになり、より血の通ったものになります。組織が置かれているあるがままの状況を理解するということからスタートすることで現状打破するようなパワーもつけることができると考えます。

また、我々審査員は、現場の現状を把握することが基本であることを再認識することが重要です。現場活動をしっかり確認し、現場と手順書やマニュアル類との相違があれば、単に現場活動の不備を指摘するのではなく、どこにその不整合の原因があるかをしっかり見極め、「マネジメント全体のしくみをうまく変えることができる指摘」(PDCAサイクルが有効に機能する改善点)を1件見いだすことで、複数の相違点が解消できるような審査を心がけていきたいと思います。

最後に、2015年版の改訂にあたり現場に役立つ審査を考え、また現場に役立つ仕組み(個人と組織を守り、より強い組織に変革するためのしくみ)としての2015年版マネジメントシステムの構築・運用に取り組んでいかれることを祈念いたします。

元永 優一 (もとなが ゆういち)
インターテック・サーティフィケーション品質/環境/労働安全衛生/情報セキュリティ主任審査員。建設、エンジニアリング・研究開発、環境研究開発専門。福岡県糸島市在住。

特集 2 事例紹介

当社の移行への取組み

株式会社町田工務店 藤田 典弘

当社では現在、次回サーベイランス(11月予定)での移行審査に向けて準備を進めております。文書類については、現在使用しているISO9001、14001のマニュアルを、思い切って廃棄にしようと思っております。その他の審査でしか見せない、使用しない文書記録類も、廃棄しようと考えております。現在はISO9001、14001の規格項目順には並べていないマニュアルを作成しておりますが、規格で要求されなくなったのも要因ですし、誰も見ないのも要因ですし、当社の業務が特に変わるわけでもないので、本当に実務で必要だと思われる分は何らかの形で残そうと各部署と相談していこうと思っております。今回も外部審査の前に内部監査とマネジメントレビューを実施する予定ですが、それも今後、現状年1回実施していますが、審査に通る為のセレモニー的な(おそらく色んな企業様がそうされているのだと思いますが)事は見直したいと考えております。

本来ならあらかじめ定められた間隔でと規格には記載しておりますが、定期的にするものではないと思います。何かあった時に定期的と決めていると意味がないと思いましたので。これに関しては、いきなりとはなかなかいかないので、じっくり考えて進めて行きたいと考えています。今回の改訂を現在のシステムを見直すいい機会と捉え、今後の運用に繋げていきたいと思っています。

この度の2015年版改訂を、面倒なことと捉えるケースが多いかも知れません。同社ご担当者様は、この改訂を前向きに捉えておられます。『マニュアルを捨てる』『変える』きっかけとして活かそうとされています。必ずしもマニュアルがなくても、普段の業務がISO規格に合っていればいいわけです。但し、マニュアルが規格の要求事項でなくても、多くの組織ではマニュアル(という名前の文書)を作られるケースが多いようです。

今後2015年版改訂のような大きな改訂はなかなかないでしょう。しばらくぶりのこの改訂を面倒な改訂ではなく、何か役に立つきっかけにして頂けるといいと思います。

NPS調査開始

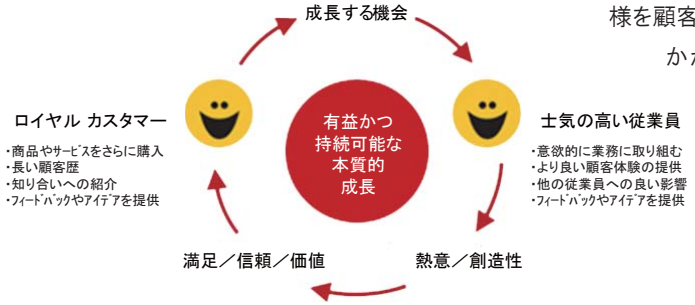
従来より弊社では、審査業務の改善とサービス向上のため、審査後のアンケートをFAXにて頂戴しております。アンケートにいつもご協力をいただき、誠にありがとうございます。

アンケートに加え、この度インターテックグループでは、グローバルな取組みとして、「ネット プロモーター スコア（NPS）」と呼ばれる電話での聞き取り調査を開始することとなりました。

これは、お客様のロイヤルティを測る指標の一つで、お客様と直接お話しすることで、言葉通りの最新のコメントを共有します。企業側が改善・成長をし、更に良いサービスを提供することで、お客様と企業側がより良い関係となることを目的としております。

現在、初めてインターテックの認証を受けられたお客様を中心に実施させていただいております。ご多忙の折、大変恐縮ですが、調査の電話をかけさせていただいた際は、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

※アンケートおよび電話調査の内容は弊社にて管理し、公開は致しません。



新セミナーのご案内

研修部では、今年度より皆様に様々なセミナーをご提供したいという趣旨から、第一弾として、社員が活き活き働く組織をつくるための「アンガーマネジメントセミナー」、適切なクレーム対応術を学ぶ「クレーム対応向上セミナー」をご案内しております。

アンガーマネジメントは1970年代にアメリカで始まった『アンガー（イライラ怒りの感情）』を、マネジメントする（後悔しないようにする）ための心理教育トレーニングです。「自分のイライラした感情をなんとかしたい」「怒りの感情と上手く付き合って、良い方向に進みたい」と、思っていらっしゃる方にお薦めです。

クレーム対応向上セミナーは企業の更なる発展や存続において、大切なお客様を顧客にするために、また、クレームにかかる時間・労力・経費のムダを省き、従業員の精神的ストレスやモチベーション低下、メンタルヘルス問題・労基問題・離職問題の面からも、適切なクレームマネジメントの基本について学ぶセミナーです。

ご興味のある方は、是非当社ホームページ内研修スケジュールをご覧下さい。

交流会と相談会

弊社では、皆様方のビジネスチャンス拡大、マネジメントシステムに関する情報交換等の場としてお客様交流会を実施しています。中でも大阪事務所では、毎回異なるテーマで様々な講師を迎え、年に約10回開催し（他地区では不定期）、今年で100回を超えました。最近ではISO規格改訂関連のトピックが続き、2015年版審査の取組みについての経験談などをお客様企業に発表していただくこともありました。

また、ISO規格改訂個別無料相談会も大阪事務所で週1回程度開催しております。これまで、「規格が改訂されるとどうなるの？」「実際に何から手を付けたら良いかわからない…」「対応には極力手間もコストもかけたくない！」などの不安やお悩みをお持ちのお客様、約70社にご参加いただきました。

相談会にご興味がありましたら、お気軽にご活用ください。弊社ホームページからお申込みいただけます。

Q&A

2015年版への移行審査に関するご質問についてご紹介いたします。

Question

来年2015年版への移行審査を受ける前に、2015年版対応の内部監査が必要と聞きました。2015年版の内部監査をするために、内部監査員はどのような準備をすればいいでしょうか？
また、必要とされる知識・力量などについても合わせて教えてください。

Answer

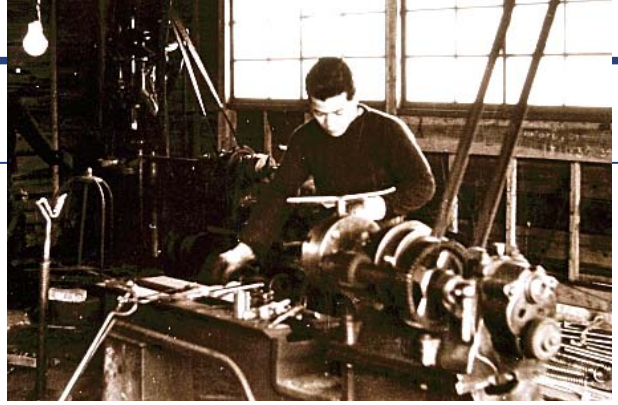
規格が2015年版に移行しても、内部監査の方法が変わるわけではありません。

・内部監査員の方は、弊社ホームページの認証企業様ページにログイン頂き、「規格改訂説明会資料」をご参照頂きたいと思います。資料にて2015年版の主な変更点をご確認頂けます。会社の仕組みが2015年版規格に対応しているか、内部監査で確認できると思います。

・改訂を機に、新たに内部監査員になられる方は、外部の内部監査員研修コースなどに参加されると、規格内容や内部監査についての基本的な知識を効率よく習得できるかと思います。弊社でも「移行対応セミナー」や「内部監査員コース」を開催しておりますので、ご活用頂ければ幸いです。弊社ホームページで、コース情報をご覧頂けます。

また、規格で求められている力量証拠の一例としては、学習された報告書や、社内資格（2015年内部監査員）一覧表の更新、社内認定書などが挙げられます。

内部監査では、組織の価値観、文化、知識、パフォーマンスなどの内部要因、また、法的、技術的、競合、市場、社会的、経済的などの外部要因を気に留めておくことが大切です。


創業当時の作業風景（ベルト式旋盤）

お客様紹介

フセハツ工業株式会社 様

（ISO9001：2015 認証登録）

〔取材者〕 審査員 **美濃 英雄** *Hideo Mino*

フセハツ工業株式会社様（東大阪市）は、ばねの総合メーカーとして、各種スプリング製品の製造販売を行われています。商品の企画段階から、1個のバネの試作づくり、そして量産まで、お客さまの「モノづくり」をサポートされています。創業66年、伝統的な職人技術を大切にしながら、最新の設備による生産技術によって、お客さまが求められている品質・価格・納期に応えられています。

6月に東京ビッグサイトで開催された「第20回 機械要素技術展」では、耐熱バネの試作サービスの他に新商品「おにぎりボール」も展示されました。「おにぎりボール」はボケ防止、握力鍛錬、疲れをいやす効果があるそうです。

2015年版移行審査も同じく今年6月にすでに終了されています。移行審査では、「経営計画とISOの一体化」「企業活動に必要なあたりまえのこと」などを意識されました。品質マニュアルは社長様自らが作成され、ホームページで公開されています。これから2015年版移行審査を受けられる方は、ぜひ参照して頂ければと思います。

同社 代表取締役社長
吉村 篤　氏

http://www.fusehatsu.co.jp/

連載よみもの

審査員の心理

第20回（環境編）
「順守評価」

環境主任審査員 **大村 敏夫** *Toshio Omura*

これまで3回に渡って「法的及びその他の要求事項」について述べましたが、関連した活動である「順守評価」も環境管理システム（EMS）では重要な機能の一つであり、その組織のEMSがどれだけ充実したものかが推察できるものです。例えば、法的要求事項のリストの端に順守評価欄があり、全ての法律について法順守という意味での「○」や、同じ方向できれいに捺印が並んでいる資料を示されることがあります。このような資料では、どのような判断がされたかが分からず、詳細をお聞きすることがあります。多くの場合、何も考えずに順守の印をつけたと推察されるケースがあり、そのような場合には、組織に該当しない法的要求事項や、該当する事態が発生しなかった場合（廃棄することの無かったリサイクル法など）にも「順守」とされていることがあります。

順守評価では、どのような要求事項に対して、どのように対応されたかの客観的証拠の記録が望まれます。また、順守評価で問題が検出され、対応が執られていることが記録されていると、順守評価が有効に機能していると判断できます。EMSはPDCAサイクルで機能していると言われますが、法的要求事項について順守評価はC（チェック）に該当し、CにはA（アクション）が伴うものです。ISO14001:2015では、「b）順守を評価し、必要な場合には、処置をとる。」とアクションの要求が明記されています。

順守評価を実施するためには、法的要求事項を理解し、対応した活動での管理状態をレビューしての判断が必要になります。ISO14001:2015では、「順守状況に関する知識及び理解を維持する」という要求事項が明記され、知識と担当者の力量を要求しています。また、7.2 力量　にて、「順守義務を満たす組織の能力に影響を与える業務を組織の管理下で行う人に必要な力量を決定する。」と、力量を必要とする業務に「順守義務にかかわる業務」が明記されています。

法的要求事項のPDCAの話をしましたが、P(プラン）には、法的要求事項を把握した上での管理方法の決定の意味があります。2004年版規格でも「これらの要求事項を組織の環境側面にどのように適用するかを決定する。」という要求事項でしたが、2015年版規格では、「6.1.4 取組の計画策定」の中に順守義務に関わることも含まれ、「6.1 リスク及び機会への取り組み」にて、リスクを特定して、その予防処置としての管理策の決定が要求されています。法からの逸脱は環境管理上のリスクでもあり、かつ、場合によっては操業停止などの組織にとってのリスクにもなります。また、順守状態を維持することにより、事業の継続が認められたり、優遇制度が適用されたり、社会的な信頼を得るなどの機会にもなります。

審査員リレーエッセイ㊷

審査員からのエッセイをお楽しみください。

From
山梨県中央市
石井 真樹
（いしい　まさき）

Profile
専門分野：ISO9001－印刷
経　　歴：株式会社サンニチ印刷、インターテック審査員（現職）

「将棋界の人材育成」

将棋の世界では師匠が弟子と将棋を指すときは、弟子が将棋界を去る時です。日本将棋連盟には奨励会というプロ棋士養成機関があります。地元の天才といわれる小中学生が、名人を目指して入会してきます。この世界の人材育成は、本人の自覚や努力が大切と考えられています。八段の師匠から手ほどきを受けても、八段止まりで名人にはなれないと考えているからです。

将棋界の第一人者である羽生善治さんの師匠は二上達也九段です。二上九段も将棋界の不文律を守り、直接指導をしていません。結果、羽生さんは15歳でプロ棋士になり23歳で名人位を獲得しました。教育訓練においては、本人の意欲や向上心が大切である事例ではないかと思います。

連載「環境とISO14001」㊷

「統合報告書とは何か」

環境主任審査員　郷古 宣昭　Nobuaki Goko

1. 統合報告書とは何か

近年、世界の機関投資家の行動がESG(環境、社会、企業統治)に取り組む企業に向けられ、企業の価値創造に積極的に関与するようになったことを述べました。この動きの少し前、2013年12月に国際統合報告評議会(IIRC)が財務／非財務報告における統合思考を促す「国際統合報告のフレームワーク」を発表しました。

株主総会で財務報告の他に環境活動報告を行うことは欧州では10数年前から行われていましたが、多くの場合、付属書として添付するに留まっていました。その後、リーマンショック等、企業や投資家の短期的利益追求による悪影響や急速な人口増加と資源の枯渇、環境破壊等、企業を取り巻く状態が大きく変化したことを背景に、企業の社会的責任が論じられるようになり、企業の目的・理念も「利益追求」から「価値創造」に変わり、さらには、「企業は社会の公器である」として社会問題解決の一定の役割も求められるようになりました。非財務報告は「価値創造」や「社会的責任」の報告であり、このフレームワークでは要所での財務報告との関係付けを含む統合された報告書を要求しています。

2. 統合報告書に記載される8つの要素

(1) 組織の概要と外部環境
組織の目標(ビジョン)と使命(ミッション)。組織の内部状況と変化する外部の社会的、経済的、政治的状況。

(2) 企業統治(ガバナンス)
企業の意思決定、合意システム。経営に携わる者の性別、能力、経験の多様性、スキルやモニタリングシステム。

(3) ビジネスモデル
投入された資源が事業活動を通じて意図した成果(アウトカム)を生み出す為の方策。組織の価値創造能力の源泉に触れることになる。

(4) リスクと機会
組織の価値創造能力に影響を与えるリスクと機会を決定し、管理するための戦略を含む。

(5) 戦略と資源配分
長期、中期、短期の目標設定と資源配分。

(6) 実績(パフォーマンス)
財務実績だけでなく、戦略目標の達成度も含む。重要パフォーマンス指標は財務指標と非財務指標とを結合して開示されること。

(7) 見通し
戦略を実行する際に直面する外部環境の変化や組織への影響度、起こり得る危機的な局面及び対策。

(8) 作成と開示の基礎
重要性決定のプロセスや報告境界の記述等。

3. ISOマネジメントシステム規格(ISO-MSS)との類似性

ここまで説明が進むと、現在私たちが直面しているISO14001:2015などの改訂ISO-MSSの根幹をなす部分(附属書SL)で求められる組織の目的(purpose)、外部・内部の課題、リスク及び機会への取組み、戦略目標の決定等とよく似ていることに気づかされます。さらには、国際統合報告フレームワークには組織の価値創造は利害関係者との関係を通して創出されるとしています。また、ISO-MSSでもそれぞれのマネジメントシステムの要求事項を組織の事業プロセスに統合することを求めています。

ISOの作成過程で統合報告フレームワークを意識したかどうかは不明ですが、企業の社会的責任や目標・理念が見直される大きな潮流の中では両者の一致はごく自然なことであるように思われます。逆に言うと、附属書SLは品質、環境、労働安全衛生等のマネジメントシステムの単なる共通項目という理解では不十分で、企業の「社会的責任」や「価値創造」が背景にあることを意識する必要があると思います。

2013年4月に、一定規模以上の事業者に対して「統合報告」の作成を求めるEU指令が発令されました。近い将来、EU各国の法令の中に反映されることになり、その影響は少なくないと思います。

次回は、最近ESGテーマとして多くの企業が関心を持っている「SDGs(持続可能な開発目標)」について解説する予定です。

購入から里親へ

株式会社グロップ（ISO14001:2004認証登録）

ISO事務局　今井 智志

シュシュ岡山店

株式会社グロップは、岡山県に本部を置き、人材ビジネスを中心に、教育・障がい者支援、各種アウトソーシングなど、世の中の変化に応じて幅広く事業展開しています。2006年にISO14001を取得し、地球環境保全に積極的に取り組んでおります。

グロップが運営する、ペットショップ「シュシュ」では、委託していた生体販売を2015年1月に止め、同4月より保健所などに保護された犬を引き取って、里親を探す事業を始めました。地元で少しずつ認知されると共に、SNSを通じて県外の方にも知られるようになり、やがてメディアからの取材が急増し、沢山の応援の声やネット通販の利用を頂くようになりました。日本では動物を家族に迎えるなら、ペットショップでの購入が当たり前ですが、近年は殺処分が注目され、見直すべきだという声も大きくなっています。シュシュは、購入から里親へという変革の先駆けとして、ペット業界の在り方を変えて行こうと、これからも里親探しを進めていきたいと考えています。

また、グロップグループでは、障害者雇用の為のグロップサンセリテなど、社会貢献できる事業を多く手掛けており、世界トップクラスの車いす陸上選手を支援・選出しています。リオ・パラリンピック（車いす陸上）へは、グロップサンセリテ（WORLD-AC）より、松永仁志選手、佐藤友祈選手の2名がリオ・パラリンピック（車いす陸上）日本代表として選ばれています。松永選手はパラリンピック3回連続選出で、世界選手権で好成績をあげており、初出場の佐藤選手は昨年の世界選手権で優勝しています。両名の活躍が期待されます。

大森雅夫岡山市長（左端）表敬訪問時の松永仁志選手、佐藤友祈選手（左から）

▶http://www.grop.co.jp/

AS9100認証取得

アキモク鉄工株式会社（AS9100C:2009/ISO9001:2008認証登録）

取締役 品質保証部部長　須合 悟

当社は1980年より、天然資源である秋田杉の商品開発を通じて培われた産業技術を今に活かし、お客様の多様な要望に応えながら地域社会と共に発展する為、機械工場（産業機械製品）と鉄構工場（鋼構造物製品）を併設し、設計・製造・据付の一貫生産体制のもと互いの専門技術を研鑽し、新技術への挑戦を続けてまいりました。

2000年に品質方針を『顧客の信頼と満足を得る製品を提供する』と定め、ISO9001を認証取得し、弊社独自のシステムを運用してまいりました。数年前より航空産業の発展にビジネスチャンスを予測し、航空宇宙分野の製品製造にも着手。本年5月に、AS9100C/（航空宇宙　品質マネジメントシステム）もISO9001:2008と併せて認証取得することができました。AS9100の審査では、これまでISO9001を運用してきたことが大いに役立ちました。

今後も品質方針を遵守し、全員参加で継続的な改善活動に取り組み、更なる地域社会との共存共生により、お客様の信頼と満足を得る製品を提供すべく、日々精進を重ねてまいります。

代表取締役社長 花下智之氏（右）、取締役品質保証部部長 須合悟氏

▶http://www.akimoku-iw.jp/

INFORMATION ＝ISO9001／ISO14001移行審査に関するお知らせ＝ 〈重要〉

ISO9001：2015／ISO14001：2015が発行されて1年が過ぎました。ISO9001:2008／ISO14001:2004の認証を取得されているお客様は、移行期限（発行後36ヶ月以内＝2018年9月14日）までに、2015年版への認証移行を完了する必要があります。認証移行期間は残り2年弱となっていますが、インターテックでは、スムーズに完了いただくためにも余裕をもって2018年3月頃までに移行されることをお奨めしています。移行審査は、定期審査（維持審査、再認証審査）にて受審いただけますので、まだ移行審査を受審されていないお客様は、2015年版への移行審査に向けてご準備を進めていただけますようお願い申し上げます。ご準備が整いましたら、申請書類のご提出をお願いします。移行審査受審に必要な提出書類は、弊社ホームページからダウンロードいただけます。

※移行期限を過ぎますと、ISO9001:2008、ISO14001:2004共に、認証失効しますのでご注意ください。

◆2015年版（ISO9001／ISO14001）移行審査関連書類◆ http://ba.intertek-jpn.com/

弊社ホームページ［認証企業様ページ］の他、**TOPページ［2015年版移行審査について］からもダウンロードいただけるようになりました。**
TOPページからのサイトでは、以下書類がダウンロードいただけます。

▶ 移行申請書類：「審査申請書」「ギャップチェックリスト」（ISO9001／ISO14001）
▶ 参考資料　　：「2015年版への移行の流れ（概要）」「2015年版改訂のポイント（経営者のつぶやき）」

❖ホームページに関するご質問、ご不明な点等ありましたら、弊社大阪事務所までお問合せください。
大阪事務所 Tel：06-6150-0571／Email：info.ba-osaka@intertek.com

研修コースのご案内

開催日程・開催地等、研修に関する詳細は弊社ホームページにてご確認ください。

内部監査員研修コース

マネジメントシステムの維持・改善のために必須の内部監査。その知識とスキルを身に付けます。これから導入を予定されている企業や、既に導入され更に効果的な運用を目指される組織の皆様方にもお薦めです。

- 内部監査員コース
  9001／14001／18001／27001／39001　（2日間）

開催地 東京・大阪・名古屋・浜松・富山・金沢・新潟・福井・他

対象者
- 品質／環境／労働安全衛生／情報セキュリティ／道路交通安全マネジメントシステムの導入を予定／検討している
- システムをより効果的に運用したい
- 効果的な内部監査を行いたい

移行対応セミナー

ISO9001：2015、ISO14001：2015へのスムーズな移行に向けて、規格要求事項の考え方、各条項の詳細内容と解釈、重要ポイントなど、演習を交えて分かりやすく解説します。モデルケースの解説を元に具体的な対応策をご理解頂けるような内容になっています。

- ISO9001：2015　移行対応セミナー　（1日間）
- ISO14001：2015 移行対応セミナー　（1日間）

開催地 東京・大阪・名古屋・浜松・仙台・青森・他

対象者
- ISO9001：2008／ISO14001：2004を既に運用している
- 管理責任者、内部監査員（中～上級者向け）

＊弊社ホームページよりお申込み頂けます。FaxまたはEmailでのお申込みの場合は、ホームページより申込書をダウンロードいただき、必要事項をご記入の上、ご送付ください。

受講生からのお便り

ISO9001：2015 移行対応セミナーを受講して

品質移行対応セミナー（2016年4月大阪会場）受講

株式会社高向造園土木
専務取締役　高向 真司

当社は京都府亀岡市に本社を置き、2004年にISO9001を取得しています。このたびのISO9001：2015移行対応セミナーに、管理責任者の私と事務局の担当者の2名で参加しました。参加者には初心者の方も多くおられたようですが、講師の方が、丁寧に説明してくれました。

「2015年版改訂のポイントがわかりました」と事務局担当者が話していましたので、期待しています。できれば、今年11月に予定されている再認証審査で2015年版の移行審査を予定中です。間に合わなければ来年になるかもしれませんが、今のところ順調に取り組んでいます。現在、担当者が品質マニュアルを作成しており、時々、私が確認しています。

インターテック・サーティフィケーション株式会社　http://ba.intertek-jpn.com/　◆ HPをリニューアルしました ◆
東京事務所　〒103-0012　東京都中央区日本橋堀留町1-4-2 日本橋Nビル　TEL：(03)3669-7408　FAX：(03)3669-7410　E-mail：info.ba-japan@intertek.com
大阪事務所　〒532-0003　大阪市淀川区宮原3-5-24 新大阪第一生命ビル5F　TEL：(06)6150-0571　FAX：(06)6150-0575　E-mail：info.ba-osaka@intertek.com